データ抽出：医療情報
コメント作成：呼吸器外科

原発性肺がん手術における胸腔鏡下手術率

目的

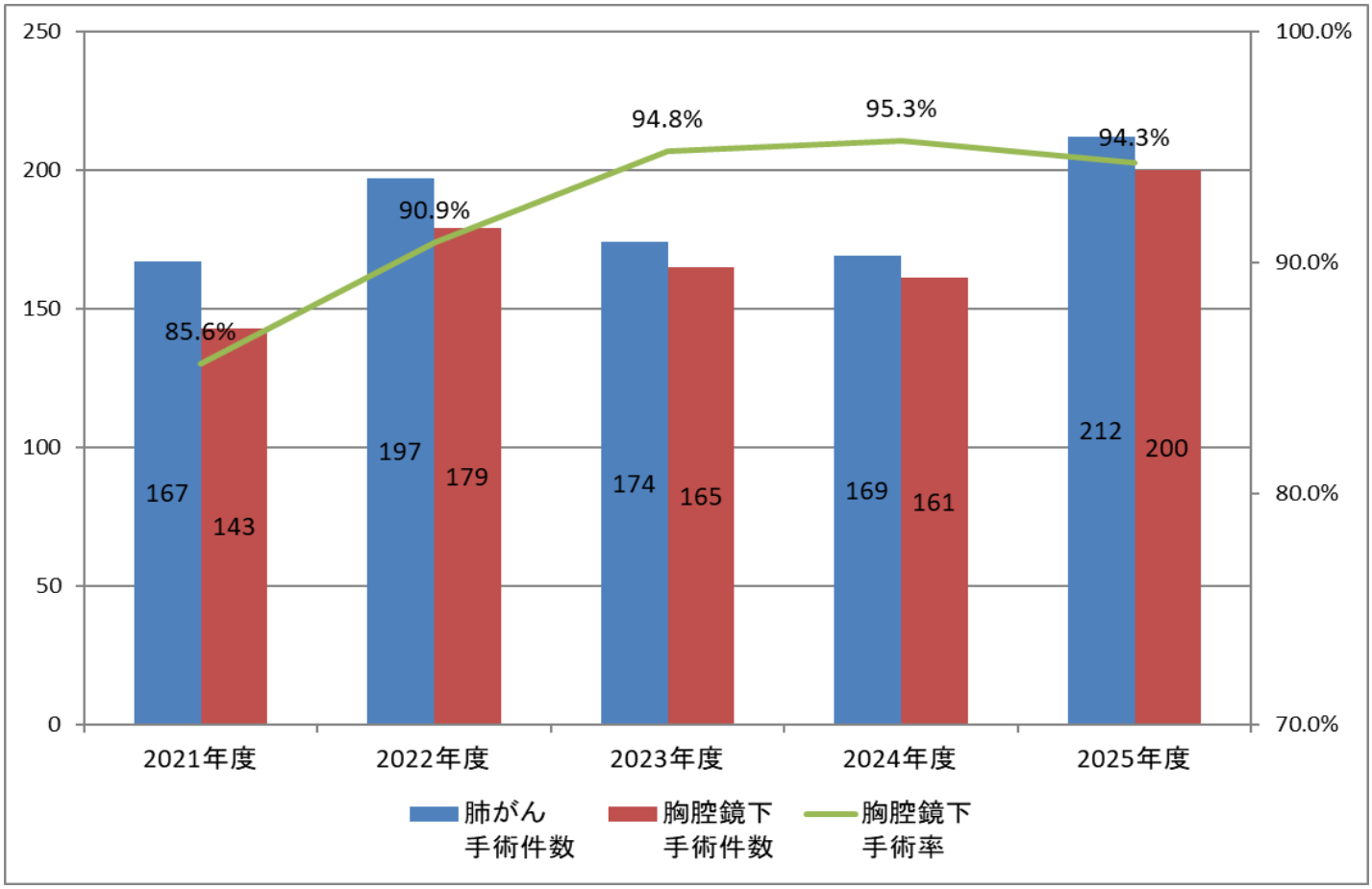
医療の質の観測

分母

原発性肺がんに対し手術を施行した患者

分子

分母患者のうち胸腔鏡下手術を施行した患者



データ抽出内容

医療情報DBより抽出
分母：肺がんICDコード…C34*、D02.2*
分子：胸腔鏡下手術接頭語03（胸腔鏡下）09（ロボット鏡視下）

データ分析コメント

二つの小さな皮膚切開創のみで手術を行う二窓法（two-window method）、さらに一つの創のみで手術を行うone window & one puncture法は、肺がんに対して最小の創で行う胸腔鏡下手術[video assisted thoracoscopic surgery（VATS）]の1つであり、当院において世界で初めて開発されました。また、2021年度よりロボット支援胸腔鏡下手術[Robotic assisted thoracoscopic suegery（RATS）]を導入しています。
肺葉切除を始めとして区域切除、部分切除などの手術のうち、90%以上が胸腔鏡下に行われております。胸腔鏡下手術は出血量、術後疼痛や呼吸機能回復において開胸手術よりもはるかに優れており、患者さんの状態に合わせた術式の選択により、より低侵襲な手術を行うことが可能です。